Saga Kyoei Bank 2018 Disclosure

佐賀共栄銀行中間期ディスクロージャー誌 2018年9月期(2018年4月1日~ 2018年9月30日)





●当行の概要

商号	株式会社 佐賀共栄銀行
	(THE SAGA KYOEI BANK,LTD.)
設立	1949年12月
本店所在地	佐賀市松原四丁目2番12号
預金	2,353億円
貸出金	1,827億円
店舗数	25店舗
行員数	324名

(2018年9月末現在)

(注) 店舗数は、ブランチ・イン・ブランチを除いております。

目 次

であいさつ	1
事業の概況	2
地域密着型金融の取り組み状況	5
資本金・株式・従業員の状況	7
中間財務諸表	8
損益の状況	14
営業の状況	
預金	16
貸出	17
証券	19
時価情報	20
デリバティブ取引	21
その他の業務	21
各種経営指標	22
バーゼルⅢ(第3の柱) に基づく開示事項	23

ごあいさつ

皆さま方には、平素より私ども佐賀共栄銀行をお引き立ていただき、誠にありがとう ございます。

この度、佐賀共栄銀行の経営内容を皆さまにご理解いただけるよう、2018年9月期ディスクロージャー誌を作成いたしましたので、ご高覧いただければ幸いに存じます。

金融機関を取り巻く環境は、競争激化により一段と厳しさを増しております。更には、高齢化や人口減少といった社会構造の変化も進んでまいります。

このような状況の中、当行は2018年4月からスタートした第十二次中期経営計画において、「サービス品質の向上」、「財務基盤の強化」、「人材の活性化」による地域経済活性化に貢献することを経営課題としております。当行は目指す銀行像として「地域に根ざした面倒見の良い銀行」を掲げており、その実現に向けて、訪問活動に重点を置いた営業活動等に取り組んでまいります。

皆さま方におかれましては、今後ともなお一層のご支援、ご愛顧を賜りますよう心よりお願い申し上げます。

取締役頭取 二宮 洋二

●収益の状況

貸出金利息収入が前年同期比57百万円増加したこと等により、基本的な収益力となるコア業務純益は前年同期比1億7百万円増加しました。

経常利益は、前年同期比75百万円増加し、5億77百万円となり、中間純利益は、前年同期比47百万円増加し、4億10百万円となりました。

○損益状況と総与信費用の推移

(単位:百万円)

	2016年9月期	2017年9月期	2018年9月期
経常利益	389	502	577
中間純利益	312	363	410
コア業務純益	377	385	493
総与信費用	46	△11	25

※コア業務純益=業務純益+一般貸倒引当金繰入額-国債等債券損益 ※総与信費用=不良債権処理額+一般貸倒引当金繰入額

●預金・預り資産・貸出金の状況

預金につきましては、前年同期比27億22百万円増加し、2,353億48百万円となりました。 預り資産につきましては、前年同期比14億38百万円増加し、371億1百万円となりました。 貸出金につきましては、前年同期比2億39百万円増加し、1.827億23百万円となりました。

○預金、個人預金及び預り資産残高の推移

(単位:億円)

○貸出金及び佐賀県内向け貸出金の推移

(単位:億円)

	2016年9月期	2017年9月期	2018年9月期
預 金	2,254	2,326	2,353
個 人 預 金	1,624	1,643	1,643
預り資産	373	356	371

2016年9月期 2017年9月期 2018年9月期 貸出金 1,813 1,824 1,827 佐賀県内向け貸出金 1,399 1,375 1,348

●自己資本比率の状況(国内基準)

2018年9月期における自己資本比率は8.30%となりました。

自己資本比率は、国内基準で必要とされている4%を大幅に上回る水準を長年に亘り維持しており、経営の健全性は高く、安心してお取引いただける水準にあります。

当行は、今後とも財務基盤の強化に努めてまいります。

○自己資本比率の推移

(単位:%)

	2016年9月期	2017年9月期	2018年9月期
自己資本比率 (国内基準)	8.23%	7.98%	8.30%

※自己資本比率とは総資産に対する自己資本(資本金や引当金等)の割合を示すもので、金融機関の財務内容の健全性を判断する重要な指標となっています。当行のように海外に営業拠点を持たない銀行は4%以上(国内基準)を維持することが義務づけられています。

●不良債権の状況

当行は、「地域に根ざした面倒見の良い銀行」を目指しており、地域経済への貢献に重点を置いて、取引先企業の経営改善及び再生支援に注力するとともに、不良債権の圧縮に努めております。

2018年9月末の不良債権(金融再生法開示債権)残高は、49億55百万円であり、総与信に対する割合は2.69% (前年同期比△0.79%)です。不良債権(金融再生法開示債権)残高の内87.30%は貸倒引当金や担保等でカバーされ ております。

○金融再生法に基づく開示基準による資産内容

ラ 並続行工人に至って開か至十にの の 民王 1日						
		2018年9月期				
	債権残高 A	担保等による 保全額B	貸倒引当金 C	保全額 D=B+C	保全率(%) D/A	
破産更生債権及びこれらに準ずる債権	1,193	457	736	1,193	100.00	
危 険 債 権	3,215	2,086	734	2,820	87.70	
要 管 理 債 権	545	229	82	311	57.15	
合 計	4,955	2,772	1,553	4,326	87.30	

○不良債権(金融再生法開示債権)の推移

(単位:百万円)

	2016年9月期	2017年9月期	2018年9月期
金融再生法開示債権残高	7,620	6,391	4,955
金融再生法開示債権比率	4.18%	3.48%	2.69%

金融再生法に基づく開示基準の概要

●総与信……… 貸出金、外国為替、支払承諾見返、未収利息、仮払金、貸付 有価証券

○破産更生債権及びこれらに準ずる債権…経営が破綻した取引先への債権

○危険債権…… 経営状態が悪化し、経営は破綻していないまでも約定どおり

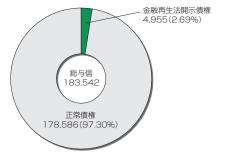
に返済できない可能性が高い取引先への債権

要管理債権…… 元金または利息の支払が3ヵ月以上遅れている貸出金と、貸

出条件を緩和している債権(上記2債権を除く)

○総与信に占める金融再生法開示債権の残高と比率

(単位:百万円



※記載金額、比率は、単位未満を切り捨てて表示しております。

●当行の最近3中間期及び最近2事業年度に係る主要な経営指標等の推移

					(半位・日月日)
項 目	2016年9月期	2017年9月期	2018年9月期	2017年3月期	2018年3月期
経 常 収 益	2,741	2,741	2,836	5,515	5,760
経 常 利 益	389	502	577	585	802
中間(当期)純利益	312	363	410	492	558
資 本 金 (発行済株式総数)	2,679 (22,034千株)	2,679 (22,034千株)	2,679 (22,034千株)	2,679 (22,034千株)	2,679 (22,034千株)
純 資 産 額	13,569	14,152	15,266	14,211	14,844
総 資 産 額	260,109	264,419	268,594	257,185	259,840
預 金 残 高	225,430	232,625	235,348	224,139	225,463
貸出金残高	181,384	182,484	182,723	180,802	184,184
有 価 証 券 残 高	56,330	62,017	63,425	59,381	64,214
1 株当たり中間純利益	14.27円	16.59円	18.76円	_	_
1 株当たり当期純利益	_	_	-	22.48円	25.53円
潜 在 株 式 調 整 後 1株当たり中間純利益	_	_	_	_	_
潜 在 株 式 調 整 後 1株当たり当期純利益	_	_	_	_	_
1株当たり配当額	3.00円	3.00円	3.00円	6.00円	6.00円
従 業 員 数 [外、平均臨時従業員数]	383人 [53人]	345人 [60人]	310人 [80人]	358人 [56人]	324人 [64人]
自己資本比率	5.21%	5.35%	5.68%	5.52%	5.71%
単体自己資本比率(国内基準)	8.23%	7.98%	8.30%	8.19%	8.07%
営 業 活 動 に よ るキャッシュ・フロー	4,574	5,525	10,611	1,029	△1,375
投 資 活 動 に よ るキャッシュ・フロー	172	△2,818	784	△2,170	△4,409
財 務 活 動 に よ るキャッシュ・フロー	△68	△69	△66	△135	△135
現金及び現金同等物の 中間期末 (期末) 残高	21,401	18,085	20,856	15,446	9,527

- (注) 1. 消費税及び地方消費税の会計処理は、税抜方式によっております。
 - 2. 自己資本比率は、(中間) 期末純資産の部の合計を(中間) 期末資産の部の合計で除して算出しております。
 - 3. 単体自己資本比率は、銀行法第14条の2の規定に基づく2006年金融庁告示第19号に定められた算式に基づき算出しております。当 行は国内基準を採用しております。
 - 4. 潜在株式調整後1株当たり中間(当期)純利益については、潜在株式がないため記載しておりません。
 - 5. 従業員数は、就業人員数を表示しております。

●2018年度に行った施策

◆地域活性化への取り組み

○産学連携による新商品開発および販路開拓支援の取組み

当行では、学校法人永原学園 西九州大学さまと連携して地元企業の新商品開発と販路開拓支援を行い、株式会社 小嶋やさまのパプリカドレッシングが販売開始となりました。また、商品開発後には、当行の取締役、部長による 試食会も行いました。

【新商品開発支援】

・これまで廃棄口スとなっていた伊万里産パプリカを有効活用し、ノンソルトで素材本来の味を追求したドレッシングを開発したいとの相談が小嶋やさまから当行へ寄せられました。相談を受け、学校法人永原学園西九州大学さまへ取次ぎし、外部専門家の視点を取り入れた新商品の開発支援を行いました。その後、同社と同大学は委託研究契約を締結され、成分分析や栄養評価等専門家の意見を取り入れながら新商品の開発が行われました。

【販路拡大支援】

・当行が加盟する第二地方銀協会主催の合同商談会『地方創生「食の魅力」発見商談会2018』(東京)に同行し、同社と食料品バイヤーとのマッチング機会の提供やクラウドファンディングを活用した販路開拓支援を行いました。

○日本政策金融公庫との協調融資商品の取扱開始

2018年4月2日より、佐賀県内で創業・新事業に取り組まれる方を資金面でご支援させて頂くために、佐賀県内では初となる日本政策金融公庫との協調融資商品「きょうぎん×公庫 創業・新事業応援資金」の取扱いを開始しました。6月には第1号案件が融資成約し、今後も地元金融機関の当行と全国的な創業・新事業支援を行いノウハウをもつ日本政策金融公庫が連携することで、ワンストップでの支援を行ってまいります。

○「国民年金基金」加入推奨業務(※)の取扱い開始

2018年8月から「国民年金基金」加入推奨業務の取扱いを開始いたしました。国民年金基金は、自営業者の方などの国民年金第1号被保険者の方たちが、より豊かな老後を過ごすことができるよう、国民年金(老齢基礎年金)に上乗せした年金を受け取るための公的な年金制度です。

(※) 加入推奨業務とは、国民年金基金の加入資格を有するお客さまへ商品の説明・勧誘を行うことで当行は、 信託代理店として三井住友信託銀行を経由し、各都道府県国民年金基金へ取次ぎを行います。

◆地域のお客さまへの取り組み

○「地方創生『食の魅力』発見商談会2018」の開催

2018年6月20日、TRC東京流通センターで開催された「地方創生『食の魅力』発見商談会2018」(第二地方銀行協会加盟行およびリッキービジネスソリューション㈱が主催)に当行のお客様8社が参加されました。本商談会は、全国に向けて食品の販路拡大を希望する企業等と地域色豊かな食品を求める食品担当バイヤーとの商談の場を提供することを目的としており、当日は約260社が出展。また、食品バイヤーとのマッチングを図る「事前予約制個別商談会」を開催しました。

○㈱Makuake (マクアケ) との個別商談会の開催

2018年5月24日及び2018年9月5日、日本最大級のクラウドファンディングプラットフォームを提供する ㈱Makuake(マクアケ)との個別商談会を開催しました。当日は、クラウドファンディングを使った資金の調達や マーケティング等をお考えの方に参加いただきました。

◆お客さまの利便性向上への取り組み

○ATMコーナーの営業時間延長

お客さまの利便性向上を目的に、店舗内および店舗外ATMコーナーの営業時間を延長いたしました。

◇店舗内ATMコーナー

◇店舗外 A T M コーナー

	VI /						
; ;† €	対象店舗		延長後の営業時間		象店舗	延長後の語	営業時間
XY	./白舑	平日	土日祝日	X,		平日	土日祝日
本店営業部	江見支店	8:00~21:00		ゆめマ	ートさが		
神野支店	佐大通り支店			アルタ	高木瀬店	9:00~	22 : 00
小城支店	若宮支店			アルタり	かめ咲いちば		
鳥栖支店	兵庫支店			ゆめタ	ウン佐賀	10:00~	·22 : 00
				西九	州大学	9:00~21:00	非稼働

●地域密着型金融の推進に関する基本方針

当行は、「地域に根ざした面倒見の良い銀行」となるため、積極的に金融仲介機能を発揮し、経営相談や経営改善支援を含む地域密着型金融の推進により、地域社会へ貢献することに努めてまいります。

当行の情報ネットワークを活かすことで、継続的に地域経済の活性化が図れるように努めてまいります。

お客さまの高度化・多様化するニーズに的確かつ迅速に対応することで、お客さま満足度の高い金融サービス・商品の提供を目指してまいります。

●中小企業者の経営支援に関する取り組みについて

お客さまからの経営改善等に関するご相談に対しては、営業店と本部所管部が連携のうえ、お客さまのライフステージ(創業、成長、再生、承継等)に応じた最適なソリューションの提案、助言等の細やかな支援活動を行うことにより、コンサルティング機能の発揮に努めてまいります。

また、2016年10月に専門部署であるソリューション営業グループを新設し、お客さまの抱える様々な課題の解決に向け、積極的に活動しております。

●中小企業者の経営支援に関する態勢整備

当行は、お客さまの経営改善を行うため、次の外部専門家・外部機関等と連携して対応しております。

佐賀県信用保証協会	佐賀県中小企業再生支援協議会	佐賀県経営改善支援センター
中小企業基盤整備機構	佐賀県中小企業診断協会	佐賀県地域産業支援センター
佐賀県よろず支援拠点(with-Biz SAGA)	地域経済活性化支援機構(REVIC)	さが事業再生ファンド
佐賀県事業引継ぎ支援センター	日本M&Aセンター	その他の経営革新等支援機関

●中小企業者の経営の改善及び地域の活性化のための取り組みの状況

- 創業・新規事業開拓の支援-

佐賀県(産業企画課)が推進する産業振興策の一つである「さがラボ推進構想」では、起業家・創業者の支援を 実施する団体・個人を「さがラボエバンジェリスト」として登録しており、当行も本制度に登録して、佐賀県と協力しながら支援活動を行っております。

公益財団法人佐賀県地域産業支援センター、株式会社日本政策金融公庫佐賀支店、その他県内の各自治体や商工会議所等と連携し、創業支援等に取り組んでおります。

補助金・制度融資等の情報を発信しております。

-成長段階における支援-

「きょうぎん情報市場」(行内ネットワーク)や第二地方銀行協会加盟行間の情報交換制度等を活用したビジネスマッチング機会の提供を行っております。

私募債、ABL(動産・債権譲渡担保融資)等、多様な資金供給方法の提供を行っております。

お客さまの成長に資する補助金・制度融資等の情報も発信しております。

私募債実績

2018年度上期実績	7件/660百万円		
ABL実績			
2018年度上期実績	23件/1,469百万円		
補助金申請支援			
2018年度上期実績	20件		

-経営改善・事業再生・業種転換等の支援-

お客さまの財務状況等の継続的な把握と事業等の改善に向けた提案の実施や外部専門家・外部機関等との連携による経営改善計画策定支援、事業改善支援を行っております。

独立行政法人中小企業基盤整備機構や佐賀県事業承継支援センター、佐賀県事業引継ぎ支援センター等の外部機関と連携し、事業承継やM&Aの支援に取り組んでおります。

取組項目	2018年度上期実績
経営改善支援取組先数	86先
うち再生計画策定先数	81先
うちランクアップ先数	2先

- 「経営者保証に関するガイドライン」の活用状況-

経営者保証につきましては、お客さまと保証契約を締結する場合、お客さまから既存の保証契約の見直しのお申し入れがあった場合、および保証人のお客さまがガイドラインに則した保証債務の整理を申し立てられた場合は、ガイドラインに基づき誠実に対応するよう努めています。

対象期間: 2017年4月~2018年9月 (単位:件)

733(Milla - E0 1 7 1/1 E0 1 0 E7		(+12 · 11 /	
取組項目	2017年4月~ 2017年9月末	2017年10月~ 2018年3月末	2018年4月~ 2018年9月末
新規に無保証で融資した件数	648	628	707
新規融資件数	1,482	1,567	1,581
新規融資に占める経営者保証に依存しない融資の割合	43%	40%	44%
保証契約を変更した件数	0	0	0
保証契約を解除した件数	34	19	22
ガイドラインに基づく保証債務整理の成立件数	0	0	0

-地域の活性化に関する取り組み-

成長事業分野の支援による地域社会の発展を目指すことを目的として、「きょうぎん成長基盤強化ファンド」による積極的な成長事業分野への資金の供給に取り組んでおります。

きょうぎん成長基盤強化ファンド取り組み実績

2018年度上期実績 24件/1,509百万円

「佐賀共栄銀行ビジネスクラブ」では、セミナーやビジネスマッチング機会の提供等、経営者の皆さまのお役に立つサービスの提供に努めております。

「きょうぎん絆塾」では、若手経営者・次世代経営者・経営幹部の皆さまの相互の交流と経営に関する啓発・情報交換等を通じて参加者の皆さまの親睦を図ることを目的に、セミナーや交流会等を開催しております。

2018年度は、9月に「佐賀共栄銀行ビジネスクラブ」、「きょうぎん絆塾」を共同で開催しました。

開催年月	講演内容	講師	参加人数
2018年 9月	「吉野家V字回復の軌跡」 〜同じ方向を共有する組織づくり〜	株式会社 吉野家ホールディングス 会長 安部 修仁 様	約180名

- 目利き能力向上を図るための人材育成への取り組み-

目利き能力向上を図るため、融資能力向上研修・財務能力向上研修等を実施しております。また、個人ローン研修・預り資産ブラッシュアップ研修・成長分野事業融資研修等のテーマ別研修を行い、更に、女性向け融資能力向上研修や若手行員を対象とした融資管理研修も行っております。

また、中小企業診断士育成のためのサポートを行っており、その結果、当行には現在7名の有資格者が在籍しております。

●地域の面的再生への積極的な参画

医療・介護・再生可能エネルギーなどの成長分野への支援等も積極的に行いました。

医療・介護分野への融資実績

E-77 7 10273 23 47 10273						
2018年度上期実績	30件/712百万円					
再生可能エネルギー分野への融資実績						
2018年度上期実績	30件/1,396百万円					

●地域や取引先に対する積極的な情報発信

地域密着型金融の進捗状況については、ディスクロージャー誌およびミニ・ディスクロージャー誌において最新情報を分かりやすく開示するように努めてまいります。

お客さまからの更なる信頼を確保するため、今後も、お客さまからのご意見を踏まえた分かりやすい情報発信に 努めてまいります。 ●資本金の推移

			2017年9月期末	2018年9月期末
資	本	金	2,679	2,679

●株式の総数 (2018年9月期末現在)

発	行	可	能	株	式	総	数	40,000,000株
発	行	済	t t	朱	式	総	数	22,034,500株

●株式所有者別状況

(2018年9月期末現在)

(単位:百万円)

区	分	株主数	株式の状況(1単元	の株式数1,000株)
<u> </u>	π ————————————————————————————————————	(人)	所有株式数(単元)	割合 (%)
政府及び地方	方 公 共 団 体	_	_	_
金融	機 関	22	9,579	44.08
金融商品	取引業者	2	129	0.60
そ の 他	の法人	116	7,630	35.11
	個 人 以 外	_	_	_
	個 人	_	_	_
個人そ	の他	981	4,392	20.21
	計	1,121	21,730	100.00
単元未満株	式 の 状 況	_	304,500株	

⁽注) 自己株式168,238株は、「個人その他」に168単元、「単元未満株式の状況」に238株含まれております。

●大株主一覧

(2018年9月期末現在)

· · · · · · · · · · · · · · · · · · ·		
氏名又は名称	所有株式数 (干株)	発行済株式(自己株式を 除く。)の総数に対する 所有株式数の割合 (%)
日本トラスティ・サービス信託銀行株式会社(信託口4)	1,646	7.52
松尾建設株式会社	1,366	6.24
	1,251	5.72
株式会社みずほ銀行	1,130	5.16
株式会社西日本シティ銀行	1,058	4.83
株式会社佐賀銀行	823	3.76
株式会社三井住友銀行	750	3.43
昭 和 自 動 車 株 式 会 社	744	3.40
株式会社りそな銀行	697	3.18
株式会社福岡中央銀行	655	2.99
	10,123	46.29

⁽注) 上記の信託銀行所有株式数のうち、当該銀行の信託業務に係る株式数は、次のとおりです。 日本トラスティ・サービス信託銀行株式会社(信託口4) 1,646千株

●従業員の状況

					2017年9月期末	2018年9月期末	
従	従業		員		数	364人	324人
平		均		年		38年4月	38年3月
平	均	勤	続	年	数	15年0月	15年0月
平	均	給	与	月	額	333千円	371千円

- (注) 1. 従業員数には、臨時雇用及び嘱託を含んでおりません。
 - 2. 平均年齢、平均勤続年数及び平均給与月額は、それぞれ単位未満を切り捨てて表示しております。
 - 3. 平均給与月額は、9月の時間外手当を含む平均給与月額であり、賞与は含んでおりません。

●中間貸借対照表

(単位:百万円)

		(単位:百万円)
期別科目	2017年9月期末	2018年9月期末
(資産の部)		
現 金 預 け 金	18,085	20,856
有 価 証 券	62,017	63,425
貸 出 金	182,484	182,723
その他資産	1,068	802
その他の資産	1,068	802
有 形 固 定 資 産	3,087	2,823
無形固定資産	99	400
支 払 承 諾 見 返	829	684
貸 倒 引 当 金	△3,252	△3,122
(資産の部合計)	264,419	268,594
(負債の部)		
預 金	232,625	235,348
借 用 金	15,014	15,100
その他負債	883	963
未払法人税等	55	170
資産除去債務	26	2
その他の負債	801	790
賞 与 引 当 金	63	72
役員退職慰労引当金	49	57
睡眠預金払戻損失引当金	137	148
繰延税金負債	353	660
再評価に係る繰延税金負債	310	292
支 払 承 諾	829	684
〔負債の部合計〕	250,267	253,327
(純資産の部)		
資 本 金	2,679	2,679
資 本 剰 余 金	1,259	1,259
資本準備金	1,259	1,259
利 益 剰 余 金	7,686	8,203
利益準備金	827	854
その他利益剰余金	6,858	7,349
別途積立金	4,367	4,367
繰越利益剰余金	2,491	2,981
自己株式	△67	△70
株主資本合計	11,557	12,072
その他有価証券評価差額金	1,964	2,606
土地再評価差額金	629	587
評価・換算差額等合計	2,594	3,194
〔純資産の部合計〕	14,152	15,266
負債及び純資産の部合計	264,419	268,594

●中間損益計算書

期別科目	2017年9月期	2018年9月期
経常 収益	2,741	2,836
資金運用収益	2,197	2,257
(うち貸出金利息)	(1,757)	(1,815)
(うち有価証券利息配当金)	(434)	(437)
役務取引等収益	348	355
その他業務収益	47	23
その他経常収益	147	200
経 常 費 用	2,238	2,258
資 金 調 達 費 用	83	71
(うち預金利息)	(83)	(71)
役務取引等費用	323	339
その他業務費用	9	26
営 業 経 費	1,764	1,721
その他経常費用	57	100
経 常 利 益	502	577
特別利益	_	2
固定資産処分益	_	2
特 別 損 失	79	13
固定資産処分損	3	1
減 損 損 失	76	12
税引前中間純利益	422	567
法人税、住民税及び事業税	76	186
法人税等調整額	△16	△29
法 人 税 等 合 計	59	156
中間純利益	363	410

●中間株主資本等変動計算書

2017年9月期 (単位:百万円)

			株主	資 本		
		資本剰余金		利益類	制余金	
	資 本 金	資本準備金	利益準備金	その他利	益剰余金	ション・ション・ション・ション・ション・ション・ション・ション・ション・ション・
		具 4 年 개 並	利益华浦並	別途積立金	繰越利益剰余金	利益剰余金合計
当期首残高	2,679	1,259	813	4,367	2,171	7,352
当中間期変動額						
利益準備金の積立			14		△14	_
剰余金の配当					△65	△65
中間純利益					363	363
自己株式の取得						
土地再評価差額金の取崩					36	36
株主資本以外の項目の 当中間期変動額(純額)						
当中間期変動額合計	_	_	14	_	319	333
当中間期末残高	2,679	1,259	827	4,367	2,491	7,686

(単位:百万円)

	株 主	資 本		評価・換算差額等		
	自己株式	株主資本合計	その他有価証券 評価差額金	土地再評価差 額 金	評 価 · 換 算 差 額 等 合 計	純資産合計
当期首残高	△64	11,227	2,317	666	2,984	14,211
当中間期変動額						
利益準備金の積立		_				_
剰余金の配当		△65				△65
中間純利益		363				363
自己株式の取得	△3	△3				△3
土地再評価差額金の取崩		36				36
株主資本以外の項目の 当中間期変動額(純額)			△353	△36	△389	△389
当中間期変動額合計	△3	330	△353	△36	△389	△59
当中間期末残高	△67	11,557	1,964	629	2,594	14,152

2018年9月期 (単位:百万円)

			株主	資本			
		資本剰余金	利益剰余金				
	資 本 金	資本準備金	利益準備金	その他利	益剰余金	피 	
		貝平华順並	们 <u></u> 一件佣立	別途積立金	繰越利益剰余金	利益剰余金合計	
当期首残高	2,679	1,259	840	4,367	2,633	7,841	
当中間期変動額							
利益準備金の積立			14		△14	_	
剰余金の配当					△65	△65	
中間純利益					410	410	
自己株式の取得							
土地再評価差額金の取崩					17	17	
株主資本以外の項目の 当中間期変動額(純額)							
当中間期変動額合計	_	_	14	_	347	361	
当中間期末残高	2,679	1,259	854	4,367	2,981	8,203	

	株主	資 本		評価・換算差額等				
	自己株式	株主資本合計	その他有価証券 評価差額金	土 地 再 評 価 差 額 金	評価・換算 差額等合計	純資産合計		
当期首残高	△68	11,712	2,527	604	3,132	14,844		
当中間期変動額								
利益準備金の積立						_		
剰余金の配当		△65				△65		
中間純利益		410				410		
自己株式の取得	△1	△1				△1		
土地再評価差額金の取崩		17				17		
株主資本以外の項目の 当中間期変動額(純額)			79	△17	62	62		
当中間期変動額合計	△1	360	79	△17	62	422		
当中間期末残高	△70	12,072	2,606	587	3,194	15,266		

●中間キャッシュ・フロー計算書

	別	2017年9月期	2018年9月期
科目			
営業活動によるキャッシュ・フロー		400	507
税引前中間純利益		422	567
減価償却費		75	67
減損損失		76	12
貸倒引当金の増減(△)		△11	25
賞与引当金の増減額(△は減少)		△8	6
役員退職慰労引当金の増減額(△は減少)		3	△4
睡眠預金払戻損失引当金の増減(△)		12	11
資金運用収益		△2,197	△2,257
資金調達費用		83	71
有価証券関係損益(△)		△105	△123
為替差損益(△は益)		△0	△0
固定資産処分損益(△は益)		3	△1
貸出金の純増(△)減		△1,681	1,460
預金の純増減(△)		8,485	9,884
借用金(劣後特約付借入金を除く)の純増減(△)		△1,211	△1,112
資金運用による収入		2,200	2,283
資金調達による支出		△95	△56
その他		△572	△170
小 計		5,478	10,663
法人税等の支払額又は還付額(△は支払)		47	△51
営業活動によるキャッシュ・フロー		5,525	10,611
投資活動によるキャッシュ・フロー			
有価証券の取得による支出		△8,431	△3,845
有価証券の売却による収入		2,259	2,759
有価証券の償還による収入		3,131	2,113
資産除去債務の履行による支出		_	△1
有形固定資産の取得による支出		△7	△48
有形固定資産の売却による収入		256	39
無形固定資産の取得による支出		△27	△232
投資活動によるキャッシュ・フロー		△2,818	784
財務活動によるキャッシュ・フロー			
自己株式の取得による支出		△3	△1
配当金の支払額		△65	△65
財務活動によるキャッシュ・フロー		△69	△66
現金及び現金同等物に係る換算差額		0	0
現金及び現金同等物の増減額 (△は減少)		2,638	11,329
現金及び現金同等物の期首残高		15,446	9,527
現金及び現金同等物の中間期末残高		18,085	20,856

2018年9月期 注記事項

記載金額は百万円未満を切り捨てて表示しております。

(重要な会計方針)

有価証券の評価基準及び評価方法

有価証券の評価は、満期保有目的の債券については移動平均 法による償却原価法(定額法)、その他有価証券のうち時価のあ る株式及び投資信託については原則として中間決算期末前1ヵ 月の市場価格等の平均に基づく時価法(売却原価は移動平均法 により算定)、時価のある株式及び投資信託以外については原 則として中間決算日の市場価格等に基づく時価法(売却原価は 移動平均法により算定)、ただし時価を把握することが極めて 困難と認められるものについては、移動平均法による原価法に より行っております。

なお、その他有価証券の評価差額については、全部純資産直 入法により処理しております。

- 固定資産の減価償却の方法
 - (1) 有形固定資産(リース資産を除く)

有形固定資産は、定率法を採用し、年間減価償却費見積額 を期間により按分し計上しております。

また、主な耐用年数は次のとおりであります。

建 物:6年~47年

その他:3年~20年

(2) 無形固定資産 (リース資産を除く)

無形固定資産は、定額法により償却しております。なお、 自社利用のソフトウェアについては、行内における利用可能 期間(5年)に基づいて償却しております。

(3) リース資産

所有権移転外ファイナンス・リース取引に係る「有形固定 資産」及び「無形固定資産」中のリース資産は、リース期間 を耐用年数とした定額法により償却しております。なお、残 存価額については、リース契約上に残価保証の取決めがある ものは当該残価保証額とし、それ以外のものは零としており

なお、該当するリース資産はありません。

- 引当金の計上基準
 - (1)貸倒引当金

貸倒引当金は、予め定めている償却・引当基準に則り、次 のとおり計上しております。

「銀行等金融機関の資産の自己査定並びに貸倒償却及び貸 倒引当金の監査に関する実務指針」(日本公認会計士協会銀 行等監査特別委員会報告第4号 2012年7月4日) に規定 する正常先債権及び要注意先債権に相当する債権について は、一定の種類毎に分類し、過去の一定期間における各々の 貸倒実績から算出した貸倒実績率等に基づき計上しておりま す。破綻懸念先債権に相当する債権については、債権額から 担保の処分可能見込額及び保証による回収可能見込額を控除 し、その残額のうち必要と認める額を計上しております。破 綻先債権及び実質破綻先債権に相当する債権については、債 権額から、担保の処分可能見込額及び保証による回収可能見 込額を控除した残額を計上しております。

すべての債権は、資産の自己査定基準に基づき、営業関連 部署の協力の下に資産査定部署が資産査定を実施しておりま

(2) 賞与引当金

賞与引当金は、従業員への賞与の支払に備えるため、従業 員に対する賞与の支給見込額のうち、当中間会計期間に帰属 する額を計上しております。

(3) 役員退職慰労引当金

役員退職慰労引当金は、役員への退職慰労金の支払いに備 えるため、役員に対する退職慰労金の支給見積額のうち、当 中間会計期間末までに発生していると認められる額を計上し ております。

(4) 睡眠預金払戻損失引当金

睡眠預金払戻損失引当金は、負債計上を中止した預金につ いて、預金者からの払戻請求に備えるため、将来の払戻請求 に応じて発生する損失を見積り必要と認める額を計上してお ります。

外貨建の資産及び負債の本邦通貨への換算基準

外貨建の資産については、中間決算日の為替相場による円換 算額を付しております。なお、外貨建の負債は保有しておりま せん。

- 5. 中間キャッシュ・フロー計算書における資金の範囲 中間キャッシュ・フロー計算書における資金の範囲は、中間 貸借対照表上の「現金預け金」のうち現金および預入期間が3 ヵ月以内の預け金であります。
- その他中間財務諸表作成のための基本となる重要な事項 消費税等の会計処理

消費税及び地方消費税の会計処理は、税抜方式によっており ます。ただし、有形固定資産に係る控除対象外消費税等は当中 間会計期間の費用に計上しております。

(中間貸借対照表関係)

貸出金のうち破綻先債権額及び延滞債権額は次のとおりであ ります。

破綻先債権額

175百万円

延滞債権額

4,101百万円

なお、破綻先債権とは、元本又は利息の支払の遅延が相当期 間継続していることその他の事由により元本又は利息の取立て 又は弁済の見込みがないものとして未収利息を計上しなかった 貸出金(貸倒償却を行った部分を除く。以下、「未収利息不計 上貸出金」という。) のうち、法人税法施行令(1965年政令 第97号) 第96条第1項第3号のイからホまでに掲げる事由又 は同項第4号に規定する事由が生じている貸出金であります。

また、延滞債権とは、未収利息不計上貸出金であって、破綻 先債権及び債務者の経営再建又は支援を図ることを目的として 利息の支払を猶予した貸出金以外の貸出金であります。

2. 貸出金のうち3ヵ月以上延滞債権額は次のとおりでありま

3ヵ月以上延滞債権額

103百万円

なお、3ヵ月以上延滞債権とは、元本又は利息の支払が約定 支払日の翌日から3ヵ月以上遅延している貸出金で破綻先債権 及び延滞債権に該当しないものであります。

貸出金のうち貸出条件緩和債権額は次のとおりであります。 貸出条件緩和債権額 442百万円

なお、貸出条件緩和債権とは、債務者の経営再建又は支援を 図ることを目的として、金利の減免、利息の支払猶予、元本の 返済猶予、債権放棄その他の債務者に有利となる取決めを行っ た貸出金で破綻先債権、延滞債権及び3ヵ月以上延滞債権に該 当しないものであります。

破綻先債権額、延滞債権額、3ヵ月以上延滞債権額及び貸出 条件緩和債権額の合計額は次のとおりであります。

4,822百万円

なお、上記1.から4.に掲げた債権額は、貸倒引当金控除 前の金額であります。

手形割引は、「銀行業における金融商品会計基準適用に関す る会計上及び監査上の取扱い」(日本公認会計士協会業種別監 査委員会報告第24号 2002年2月13日) に基づき金融取引 として処理しております。これにより受け入れた商業手形は、 売却又は(再)担保という方法で自由に処分できる権利を有し ておりますが、その額面金額は次のとおりであります。

1.002百万円

6. ローン・パーティシペーションで、「ローン・パーティシペ ーションの会計処理及び表示」(日本公認会計士協 会会計制 度委員会報告第3号 2014年11月28日) に基づいて、原債 務者に対する貸出金として会計処理した参加元本金額のうち、 中間貸借対照表計上額は次のとおりであります。

135百万円

担保に供している資産は次のとおりであります。

担保に供している資産

有価証券

19,285百万円

担保資産に対応する債務

借用金 15,100百万円

上記のほか、為替決済の取引の担保として、次のものを差し 入れております。

有価証券

3,259百万円

また、その他の資産には、保証金が含まれておりますが、 その金額は次のとおりであります。

保証金

42百万円

なお、手形の再割引は、「銀行業における金融商品会計基準適用に関する会計上及び監査上の取扱い」(日本公認会計士協会業種別監査委員会報告第24号 2002年2月13日)に基づき金融取引として処理しておりますが、これにより引き渡した商業手形はありません。

8. 当座貸越契約は、顧客からの融資実行の申し出を受けた場合に、契約上規定された条件について違反がない限り、一定の限度額まで資金を貸付けることを約する契約であります。これらの契約に係る融資未実行残高は次のとおりであります。融資未実行残高 12,652百万円

うち原契約期間が1年以内のもの 9,531百万円 なお、これらの契約の多くは、融資実行されずに終了するものであるため、融資未実行残高そのものが必ずしも当行の 将来のキャッシュ・フローに影響を与えるものではありません。これらの契約の多くには、金融情勢の変化、債権の保全 及びその他相当の事由があるときは、当行が実行申し込みを 受けた融資の拒絶又は契約極度額の減額をすることができる 旨の条項が付けられております。また、契約時において必要に応じて不動産・有価証券等の担保を徴求するほか、契約後も定期的に予め定めている行内手続に基づき顧客の業況等を 把握し、必要に応じて契約の見直し、与信保全上の措置等を 講じております。

9. 土地の再評価に関する法律(1998年3月31日公布法律第34号)に基づき、事業用の土地の再評価を行い、評価差額については、当該評価差額に係る税金相当額を「再評価に係る繰延税金負債」として負債の部に計上し、これを控除した金額を「土地再評価差額金」として純資産の部に計上しております。

再評価を行った年月日 1998年3月31日 同法律第3条第3項に定める再評価の方法

土地の再評価に関する法律施行令(1998年3月31日公布政令第119号)第2条第4号に定める地価税法第16条に規定する地価税の課税価格の計算の基礎となる土地の価額を算定するために国税庁長官が公表した方法により算定した価額に基づいて、地点の修正、画地修正等、合理的な調整を行って算出しております。

同法律第10条に定める再評価を行った事業用の土地の当中間会計期間末における時価の合計額と当該事業用の土地の再評価後の帳簿価額の合計額との差額

647百万円

10 . 有形固定資産の減価償却累計額

減価償却累計額

3,100百万円

11. 「有価証券」中の社債のうち、有価証券の私募(金融商 品取引法第2条第3項)による社債に対する保証債務の額 1,310百万円

(中間損益計算書関係)

1. その他経常収益には、次のものを含んでおります。

株式等売却益 163百万円

2. 営業経費には、次のものを含んでおります。

給料·手当 896百万円

3. 減価償却実施額は次のとおりであります。 有形固定資産

 有形固定資産
 57百万円

 無形固定資産
 9百万円

4. その他経常費用には、次のものを含んでおります。

貸倒引当金繰入額 25百万円 株式等売却損 37百万円

5. 減損損失

当中間会計期間において、地価の下落等により、以下の資産について回収可能価額まで減額し、当該減少額12百万円を減損損失として特別損失に計上しております。

地域	用途	種 類	金 額
佐賀県内	遊休資産2か所	土地	12百万円
合 計			12百万円

当行は、グルーピングの単位は営業店単位としております。 ただし、将来の使用が見込まれていない遊休資産については、 個々の物件単位でグルーピングをしております。また、本部 等銀行全体に関連する資産については共用資産としておりま す。

回収可能価額は、正味売却価額により測定しており、路線 価等の市場価格を適切に反映している指標に基づいて評価し た価額により算定しております。

(中間株主資本等変動計算書関係)

1. 発行済株式の種類及び総数並びに自己株式の種類及び株式 数に関する事項

(単位:千株)

					TIE - 1 1/1/2
		当中間会計期間 増加株式数	当中間会計期間 減少株式数		摘要
発行済株式					
普通株式	22,034	l	l	22,034	
合 計	22,034			22,034	
自己株式					
普通株式	164	3		168	(注)単元未 満株式の買 取りによる 増加
合 計	164	3	_	168	

2. 配当に関する事項

(1) 当中間会計期間中の配当金支払額

() - 1 1 1 1 1	D11431-3 1 -	700357			
(決 議)	株式の種類	配当金の総額 (百万円)	1株当たり 配当額(円)	基準日	効力発生日
2018年6月27日 定時株主総会	普通株式	65	3.0	2018年 3月31日	

(2) 基準日が当中間会計期間に属する配当のうち、配当の効力発生日が当中間会計期間の末日後となるもの

(決議)	株式の種類	配当金の総額 (百万円)	配当の 原資	1 株当たり 配当額 (円)	基準日	効力発生日
2018年11月9日 取締役会	普通株式	65	利益剰余金	3.0	2018年 9月30日	2018年 11月27日

(中間キャッシュ・フロー計算書関係)

現金及び現金同等物の中間期末残高と中間貸借対照表に掲記されている科目の金額との関係

現金預け金勘定 現金及び現金同等物 20,856百万円 20,856百万円

(金融商品関係)

金融商品の時価等に関する事項

中間貸借対照表計上額、時価及びこれらの差額は、次のとおりであります。なお、時価を把握することが極めて困難と認められる非上場株式等は、次表には含めておりません((注2)参照)。

(単位:百万円)

	中間貸借対照表計上額	時価	差額
(1) 現金預け金	20,856	20,856	_
(2) 有価証券			
満期保有目的の債券	200	201	1
その他有価証券	63,050	63,050	_
(3) 貸出金	182,723		
貸倒引当金(*)	△3,103		
	179,620	181,853	2,233
資産計	263,727	265,962	2,234
(1)預金	235,348	235,604	256
(2) 借用金	15,100	15,100	_
負債計	250,448	250,704	256

(*) 貸出金に対応する一般貸倒引当金及び個別貸倒引当金を控除 しております。

(注1) 金融商品の時価の算定方法

資 産

(1) 現金預け金

満期のない預け金については、時価は帳簿価額と近似していることから、当該帳簿価額を時価としております。満期のある預け金については、預入期間が短期間(1年以内)であり、時価は帳簿価額と近似していることから、当該帳簿価額を時価としております。

(2) 有価証券

株式は取引所の価格、債券は取引所の価格又は取引金融機関から提示された価格によっております。投資信託は、公表されている基準価格によっております。

自行保証付私募債の時価は、元利金の合計額をリスクフリー・レートに信用リスクを加味した利率で割り引いた現在価値により算定しております。

(3) 貸出金

貸出金のうち、変動金利によるものは、短期間で市場金利を反映するため、貸出先の信用状態が実行後大きく異なっていない限り、時価は帳簿価額と近似していることから、当該帳簿価額を時価としております。固定金利によるものは、貸出金の種類及び内部格付、期間に基づく区分ごとに、元利金の合計額を期間別の無リスクの市場利子率に信用リスク相当分を調整した利率で割り引いて時価を算定しております。

また、破綻先、実質破綻先及び破綻懸念先に対する債権等については、見積将来キャッシュ・フローの現在価値又は担保及び保証による回収見込額等に基づいて貸倒見積高を算定しているため、時価は中間決算日における中間貸借対照表上の債権等計上額から貸倒引当金計上額を控除した金額に近似しており、当該価額を時価としております。

貸出金のうち、当該貸出を担保資産の範囲内に限るなどの特性により、返済期限を設けていないものについては、返済見込み期間及び金利条件等から、時価は帳簿価額と近似しているものと想定されるため、帳簿価額を時価としております。

<u>負</u>債

(1) 預金

要求払預金については、中間決算日に要求された場合の支払額(帳簿価額)を時価とみなしております。また、定期預金の時価は、一定の期間ごとに区分して、将来のキャッシュ・フローを割り引いて現在価値を算定しております。その割引率は、新規に預金を受け入れる際に使用する利率を用いております。

(2) 借用金

借用金については、約定期間が短期間(1年以内)であり、時価は帳簿価額と近似していることから、当該帳簿価額を時価としております。

(注2) 時価を把握することが極めて困難と認められる金融商品の中間貸借対照表計上額は次のとおりであり、金融商品の時価情報の「資産(2) その他有価証券」には含まれておりません。

(単位:百万円)

区分	中間貸借対照表計上額		
①非上場株式(*1)(*2)	164		
②組合出資金 (*3)	10		
合 計	174		

- (*1) 非上場株式については、市場価格がなく、時価を把握する ことが極めて困難と認められることから時価開示の対象と はしておりません。
- (*2) 当中間会計期間において、非上場株式については減損処理を行っておりません。
- (*3) 組合出資金のうち、組合財産が非上場株式など時価を把握することが極めて困難と認められるもので構成されているものについては、時価開示の対象とはしておりません。

(ストック・オプション等関係)

該当事項はありません。

(持分法損益等)

1. 関連会社に関する事項

当行は関連会社がないため、「持分法損益等」の該当事項はありません。

2. 開示対象特別目的会社に関する事項

当行は開示対象特別目的会社がないため、「持分法損益等」 の該当事項はありません。

(セグメント情報等)

【セグメント情報】

当行は、銀行業として単一のサービスを提供しているため、 記載を省略しております。

【関連情報】

1. サービスごとの情報

当行は、銀行業として単一のサービスを提供しているため、記載を省略しております。

- 2. 地域ごとの情報
- (1) 経常収益

当行は、本邦の外部顧客に対する経常収益に区分した金額が中間損益計算書の経常収益の90%を超えるため、記載を省略しております。

(2) 有形固定資産

当行は、本邦に所在している有形固定資産の金額が中間 貸借対照表の有形固定資産の金額の90%を超えるため、 記載を省略しております。

3. 主要な顧客ごとの情報

特定の顧客に対する経常収益で中間損益計算書の経常収益の10%以上を占めるものがないため、記載を省略しております。

【報告セグメントごとの固定資産の減損損失に関する情報】 当行は、銀行業の単一セグメントであるため、記載を省略し ております。

【報告セグメントごとののれんの償却額及び未償却残高に関する情報】

該当事項はありません。

【報告セグメントごとの負ののれん発生益に関する情報】 該当事項はありません。

(1株当たり情報)

1. 1株当たり純資産額

1株当たり純資産額

698.19円

(注) 1 株当たり純資産額の算定上の基礎は、次のとおりであります。

純資産の部の合計額 15,266百万円 純資産の部の合計額から控除する金額 一百万円 普通株式に係る中間期末の純資産額 15,266百万円 1株当たり純資産額の算定に用いられた中間期末の普通株式の数

21,866千株

2. 1株当たり中間純利益及び算定上の基礎

1株当たり中間純利益金額

18.76円

(算定上の基礎)

 中間純利益
 410百万円

 普通株主に帰属しない金額
 一百万円

 普通株式に係る中間純利益
 410百万円

 普通株式の期中平均株式数
 21,867千株

(注) 潜在株式調整後1株当たり中間純利益については、潜 在株式がないので記載しておりません。

(重要な後発事象)

該当事項はありません。

2017年度の中間財務諸表及び2018年度の中間財務諸表については、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、EY新日本有限責任監査法人の中間監査を受けております。

●国内・国際業務部門別粗利益

(単位:百万円)

種類		2017年9月期		2018年9月期			
性	国内業務部門	国際業務部門	合計	国内業務部門	国際業務部門	合計	
資 金 運 用 収 益	2,176	20	2,197	2,234	23	2,257	
資 金 調 達 費 用	83	_	83	71	_	71	
資 金 運 用 収 支	2,093	20	2,113	2,163	23	2,186	
役務取引等収益	348	_	348	355	_	355	
役務取引等費用	323	_	323	339	_	339	
役 務 取 引 等 収 支	25	_	25	16	_	16	
その他業務収益	47	0	47	23	0	23	
その他業務費用	9	_	9	26	_	26	
その他業務収支	37	0	37	△3	0	△2	
業務粗利益	2,156	20	2,176	2,176	23	2,200	
業務粗利益率	1.73%	1.54%	1.73%	1.73%	1.46%	1.73%	

(注) 1. 「国内業務部門」とは円建取引、「国際業務部門」とは外貨建取引であります。

2. 業務粗利益率 = 業務粗利益 資金運用勘定平均残高 × 100

●業務純益

(単位:百万円)

	種	種類類		2017年9月期	2018年9月期
業	務	純	益	423	494

(注) 業務純益は、銀行の本業での業績を示す指標として用いられております。

●資金運用・調達勘定平均残高、利息、利回り

(単位:百万円)

			2017年9月期		2018年9月期			
		平均残高	利 息	利回り (%)	平均残高	利 息	利回り (%)	
国内業務部門	資金運用勘定	247,229	2,176	1.75	250,248	2,234	1.78	
四内未伤叩门	資金調達勘定	249,281	83	0.06	248,883	71	0.05	
国際業務部門	資金運用勘定	2,649	20	1.54	3,198	23	1.45	
四际未伤叩门	資金調達勘定		_		_	_	_	
合 計	資金運用勘定	249,878	2,197	1.75	253,446	2,257	1.77	
	資金調達勘定	249,281	83	0.06	248,883	71	0.05	

(注) 1. 資金運用勘定は無利息預け金の平均残高(2017年9月期8,418百万円、2018年9月期5,629百万円)を控除して表示しております。

2. 「国内業務部門」とは円建取引、「国際業務部門」とは外貨建取引であります。

●受取利息・支払利息の増減

						2017年9月期		2018年9月期			
					残高による増減	利率による増減	純 増 減	残高による増減	利率による増減	純 増 減	
国内業務部門	受	取	利	息	15	△60	△45	25	32	57	
四的未伤印门	支	払	利	息	0	△7	△6	△0	△12	△12	
豆 啖 类 致 却 眼	受	取	利	息	4	1	5	4	△1	2	
国際業務部門	支	払	利	息	_	_	_	_	_	_	
合 計	受	取	利	息	20	△60	△39	30	30	60	
	支	払	利	息	0	△7	△6	△0	△12	△12	

- (注) 1. 残高及び利率の増減要因が重なる部分については、両者の増減割合に応じて按分しております。
 - 2. 「国内業務部門」とは円建取引、「国際業務部門」とは外貨建取引であります。

種	類	2017年9月期	2018年9月期
	等 収 益	348	355
う ち 預 金	・ 貸 出 業 務	121	101
う ち 為	替 業 務	91	95
うち証券	関 連 業 務	48	55
うち代	理業務	80	93
うち保護預り	· 貸金庫業務	2	1
う ち 保	証 業 務	4	6
	等 費 用	323	339
う ち 為	替 業 務	13	14

●営業経費の内訳

●役務取引の状況

(単位:百万円)

(単位:百万円)

	科			I	2017年9月期	2018年9月期
給	料	•	手	当	904	896
退	職	給	付 費	用	48	46
福	利	厚	生	費	3	2
有	形固	定資	産産	償 却	64	57
無	形固	定資	産産	償 却	11	9
土	地 建	物機	械 賃	借料	145	145
営		繕		費	1	2
消		耗	品	費	22	21
給	水	光	熱	費	16	15
旅				費	2	1
通		信		費	53	50
広	告	宣	伝	費	5	6
諸	会 費·	寄付:	金 · 交	際費	10	11
租		税	公	課	81	86
そ		の		他	391	365
	合		計		1,764	1,721

●その他業務利益の内訳

		2017年9月期		2018年9月期				
	国内業務部門	国際業務部門	合計	国内業務部門	国際業務部門	合計		
その他業務収益	47	0	47	23	0	23		
外国為替売買益	_	0	0	_	0	0		
商品有価証券売買益	_			_	_	_		
国債等債券売却益	47		47	23	_	23		
国債等債券償還益	_	_	_	0	_	0		
その他業務費用	9	_	9	26	_	26		
外国為替売買損	_	_	_	_	_	_		
商品有価証券売買損	_				_	_		
国債等債券売却損	9	_	9	25	_	25		
国債等債券償還損	0	_	0	0	_	0		
国债等债券償却	_	_	_	_	_	_		
そ の 他	_	_		_	_	_		
その他業務利益	37	0	37	△3	0	△2		

⁽注)「国内業務部門」とは円建取引、「国際業務部門」とは外貨建取引であります。

●預金・譲渡性預金残高

(単位:百万円)

	種			類		20	17年9月期末		2018年9月期末			
	任生			大只		金額	構成比(%)	金	額	構成比(%)		
	流	動	性	預	金	94,431	40.60	98	3,281	41.76		
	定	期	性	預	金	137,603	59.15	135	,657	57.64		
預	う	ち固え	官金利	定期	預 金	136,054	58.48	134	,255	57.04		
金	う	ち変重	协金 利	定期	預 金	5	0.00		3	0.00		
	そ		の		O .		他	590	0.25	1	,409	0.60
	合		計		232,625	100.00	235	,348	100.00			
譲	渡性		預		金	_			_	_		
	総合			計		232,625	100.00	235	,348	100.00		

●預金・譲渡性預金平均残高

(単位:百万円)

	種			類		2017	7年9月期	2018年9月期									
	但			枳		金額	構成比(%)	金額	構成比(%)								
	流	動	性	預	金	95,428	40.82	98,535	42.06								
	定	期	性	預	金	137,496	58.81	134,850	57.57								
預	j.	ち固定	金利	定期	預金	135,889	58.12	133,389	56.94								
金	j.	ち変動	金利	定期	預金	5	0.00	3	0.00								
	そ		の		の		の		の		の		他	869	0.37	869	0.37
	合				計	233,793	100.00	234,255	100.00								
譲	渡	性	刋	頁	金		_	_	_								
	総	合	合 計		233,793	100.00	234,255	100.00									

(注) 1. 流動性預金=当座預金+普通預金+貯蓄預金+通知預金

2. 定期性預金=定期預金+定期積金

固定金利定期預金:預入時に満期日迄の利率が確定する定期預金

変動金利定期預金:預入期間中の市場金利の変化に応じて金利が変動する定期預金

3. 国内業務部門のみ取扱っております。

●定期預金の残存期間別残高

(単位:百万円)

	\	期別・種類				重類	:	2017年9月期末		2018年9月期末			
								定期預金			定 期 預 金		
ţ	朝	間				_			うち固定金利 定期預金	うち変動金利 定 期 預 金		うち固定金利定 期預金	うち変動金利 定期預金
(3		か	月	未		満	16,227	16,226	1	17,440	17,439	1
(3	かを	1 以	上 6	か月	未	満	23,509	23,508	1	18,091	18,091	0
(6	か	月以	以 上	1 年	未	満	48,493	48,490	2	41,850	41,850	_
	1	年	以	上名	2 年	未	満	15,515	15,515	0	21,328	21,328	0
- 6	2	年	以	上 3	3 年	未	満	15,827	15,827	0	15,845	15,843	2
	3		年		以		上	15,416	15,416	_	18,633	18,633	_
		Ê	Ì		Ē	it .		134,990	134,985	5	133,190	133,187	3

(注) 本表の預金残高には、積立定期預金を含んでおりません。

●預金者別預金残高

(単位:百万円)

				2017年	9月期末	2018年9月期末		
				金額	構成比(%)	金額	構成比(%)	
個			人	164,369	70.66	164,301	69.81	
法			人	68,255	29.34	71,046	30.19	
_	般	法	人	47,445	20.39	48,975	20.81	
金			融	295	0.13	411	0.18	
公			金	20,514	8.82	21,660	9.20	
合			計	232,625	100.00	235,348	100.00	

●財形貯蓄残高

	項			目		2017年9月期末	2018年9月期末		
財	形	年	金	預	金	76	73		
財	形	住	宅	預	金	4	4		
_	般	財	形	預	金	406	405		
合					計	486	483		

● **貸出金残高** (単位:百万円)

看	種		Į	2017年9月期末	2018年9月期末
手	形	貸	付	8,787	9,938
証	書	貸	付	161,885	161,381
当	座	貸	越	10,507	10,401
割	51	手	形	1,303	1,002
合			計	182,484	182,723

●貸出金平均残高

(単位:百万円)

₹	種		Į	2017年9月期	2018年9月期		
手	形	貸	付	8,682	9,676		
証	書	貸	付	163,202	162,959		
当	座	貸	越	9,441	9,960		
割	引	手	形	1,213	1,051		
合			計	182,540	183,647		

⁽注) 国内業務部門のみ取扱っております。

●貸出金の残存期間別残高

(単位:百万円)

					期別・和	重類		2017年9月期末		2018年9月期末			
				_			貸 出 金			貸 出 金			
期	間					_		うち変動金利	うち固定金利		うち変動金利	うち固定金利	
1		年		以		下	16,273			16,816			
1	年	超	3	年	以	下	13,665	3,527	10,137	12,012	3,266	8,746	
3	年	超	5	年	以	下	17,410	5,385	12,025	18,529	5,735	12,793	
5	年	超	7	年	以	下	13,683	4,743	8,939	16,393	5,526	10,867	
7			年			超	110,943	35,005	75,938	108,570	45,383	63,187	
期	間の	定	めの	な	いも	の	10,507	1,378	9,129	10,401	1,090	9,311	
	合				計		182,484			182,723			

⁽注) 残存期間 1 年以下の貸出金については、変動金利、固定金利の区別をしておりません。

●貸出金使途別残高

(単位:百万円)

-		_	_	2017年9	月期末	2018年9	9月期末
Ľ	区		3	金 額	構成比(%)	金額	構成比(%)
設	備	資	金	110,213	60.40	110,898	60.69
運	転	資	金	72,270	39.60	71,825	39.31
合			計	182,484	100.00	182,723	100.00

●貸出金の担保別内訳

(単位:百万円)

種		類	2017年9月期末	2018年9月期末
有	価 証	券	_	56
債		権	1,453	1,767
商		品	_	_
不	動	産	37,751	37,653
そ	の	他	_	_
	計		39,205	39,478
保		証	57,739	54,795
信		用	85,539	88,449
合		計	182,484	182,723
(うち劣	後特約付	貸出金)	(672)	(672)

● 支払承諾見返の担保別内訳 (単位: 百万円)

種	種		類	2017年9月期末	2018年9月期末		
有	価	証	券	_	_		
債			権	10	10		
商			品	_	_		
不	動		産	34	136		
そ	O.	の		の		_	_
	=	†		44	147		
保			証	141	_		
信			用	642	537		
合			計	829	684		

●業種別貸出状況

(単位:百万円)

	2017年9月期末 2018年9月期末								
	業	種	÷	別		2017	年9月期末	2018年	9月期末
	*	13		נט		貸出金残高	構成比(%)	貸出金残高	構成比(%)
製		造	į		業	6,411	3.51	6,062	3.32
農	美	Ě,	林		業	389	0.21	502	0.27
漁					業	9	0.01	18	0.01
鉱業	, 採	石業,	砂利	採 取	業	44	0.02	64	0.04
建		嗀	ţ		業	7,693	4.22	8,900	4.87
電気	・ガ	ス・熱	供給	・水道	業	9,465	5.19	10,405	5.69
情	報	通	į	信	業	620	0.34	237	0.13
運	輸	業,	郵	便	業	2,337	1.28	2,753	1.51
卸	売	業,	小	売	業	9,151	5.02	9,593	5.25
金	融	業,	保	険	業	2,963	1.62	3,147	1.72
不動	b 産	業, 特	勿 品	賃 貸	業	48,927	26.81	50,354	27.56
各	種	サ ー	- Ľ	ス	業	24,131	13.22	25,321	13.86
地	方	公	共	団	体	24,088	13.20	21,819	11.94
そ		σ,)		他	46,250	25.35	43,540	23.83
合				計		182,484	100.00	182,723	100.00

●中小企業等に対する貸出金

(単位:百万円)

項	目		2017年9月期末	2018年9月期末
ーーーーーーーーーーーーーーーーーーーーーーーーーーーーーーーーーーーー	貸出金	高	152,141	154,799
中小企業寺回け	見山並 比	率	83.37%	84.71%

(注)中小企業等とは、資本金3億円(ただし、卸売業は1億円、小売業、飲食業、物品賃貸業等は5千万円)以下の会社又は常用する従業員が300人(ただし、卸売業、物品賃貸業等は100人、小売業、飲食業は50人)以下の企業等であります。

●消費者ローン・住宅ローン残高

(単位:百万円)

	項		目		2017年9月期末	2018年9月期末
住	宅		_	ン	34,681	31,561
消	費	者 口	_	ン	11,335	12,416
合				計	46,016	43,977

●貸出金償却額

(単位:百万円)

	項					2017年9月期	2018年9月期
貸	出	金	償	却	額	_	_

●貸倒引当金明細表

(単位:百万円)

区分		2017年9月期末	2018年3月期	当中間期増加額・	当中間其	月減少額	2018年9月期末	摘要
		2017年3万州木	2010年3万州	当中间粉培加蝕	目的使用	その他	2010年3万朔木	10 女
引貸	一般貸倒引当金	1,079	1,636	1,632	_	% 1,636	1,632	※洗替による取崩額
金倒	個別貸倒引当金	2,172	1,459	1,489	_	% 1,459	1,489	//
É	計	3,252	3,096	3,122	_	3,096	3,122	

●リスク管理債権額

(単位:百万円)

	2017年9月期末	2018年9月期末
破綻先債権	44	175
延 滞 債 権	5,672	4,101
3ヵ月以上延滞債権	104	103
貸出条件緩和債権	422	442
合 計	6,244	4,822

● 金融再生法に基づく開示債権額

	2017年9月期末	2018年9月期末
破産更生債権及び これらに準ずる債権	1,467	1,193
危 険 債 権	4,397	3,215
要管理債権	526	545
小 計	6,391	4,955
正常債権	177,042	178,586
合 計	183,434	183,542
与信債権に占める割合	3.48%	2.69%

- (注) 1. 「破綻先債権」とは、元本又は利息の支払の遅延が相当期間継続していることその他の事由により元本又は利息の取立て又は弁済の見込みがないものとして未収利息を計上しなかった貸出金(貸倒償却を行った部分を除く。以下「未収利息不計上貸出金」という。)のうち、法人税法施行令(1965年政令第97号)第96条第1項第3号イからホまでに掲げる事由又は同項第4号に規定する事由が生じている貸出金であります。
 - 2.「延滞債権」とは、未収利息不計上貸出金であって、破綻先債権及び債務者の経営再建又は支援を 図ることを目的として利息の支払を猶予した貸出金以外の貸出金であります。
 - 3. 「3ヵ月以上延滞債権」とは、元本又は利息の支払が約定支払日の翌日から3月以上遅延している 貸出金で破綻先債権及び延滞債権に該当しないものであります。
 - 4. 「貸出条件緩和債権」とは、債務者の経営再建又は支援を図ることを目的として、金利の減免、利息の支払猶予、元本の返済猶予、債権放棄その他の債務者に有利となる取決めを行った貸出金で破綻先債権、延滞債権及び3ヵ月以上延滞債権に該当しないものであります。
- (注) 1. 「破産更生債権及びこれらに準ずる債権」とは、破産手続開始、更生手続開始、再生手続開始の申立て等の事由により経営破綻に陥っている債務者に対する債権及びこれらに準ずる債権であります。
 - ・ こくの多ず山により作品の歌に出りている。同語の音に対する。原語なりてよりに手する。同語を と、「危険債権」とは、 債務者が経営破綻の状態には至っていないが、 財政状態及び経営成績が悪化 し、 契約に従った債権の元本の回収及び利息の受取りができない可能性の高い債権であります。
 - 3. 「要管理債権」とは、3ヵ月以上延滞債権及び貸出条件緩和債権で、破産更生債権及びこれらに準ずる債権、危険債権に該当しないものであります。
 - 4. 「正常債権」とは、債務者の財政状態及び経営成績に特に問題がないものとして、上記 1. から 3. までに掲げる債権以外のものに区分される債権であります。

●保有有価証券残高

(単位:百万円)

				2017年	9月期末		2018年9月期末			
	種	類		構成比(%)	うち国内 業務部門	うち国際 業務部門		構成比(%)	うち国内 業務部門	うち国際 業務部門
玉		債	4,960	8.00	4,960	_	4,919	7.75	4,919	_
地	方	債	7,389	11.92	7,389	_	7,329	11.56	7,329	_
社		債	24,009	38.71	24,009	_	26,340	41.53	26,340	
株		式	9,371	15.11	9,371	_	9,226	14.55	9,226	_
そ	の他の	証券	16,287	26.26	13,108	3,179	15,609	24.61	12,610	2,999
	う ち 外 国] 債券	3,179			3,179	2,999			2,999
	う ち 外 国	】株 式	_			_	_			_
合		計	62,017	100.00	58,838	3,179	63,425	100.00	60,426	2,999
/ · · · · / ·										

(注)貸付有価証券は、有価証券の種類ごとに区分して記載しております。

●保有有価証券平均残高

(単位:百万円)

				00176	-0 E		0010年0日期			
				2017	‡9月期		2018年9月期			
	種	類		構成比(%)	うち国内 業務部門	うち国際 業務部門		構成比(%)	うち国内 業務部門	うち国際 業務部門
玉		債	5,636	9.96	5,636	_	4,696	7.96	4,696	_
地	方	債	7,085	12.53	7,085	_	7,259	12.30	7,259	_
社		債	23,010	40.68	23,010	_	25,545	43.29	25,545	_
株		式	6,368	11.26	6,368		7,122	12.07	7,122	_
そ	の他の	証券	14,463	25.57	11,814	2,649	14,386	24.38	11,188	3,198
	うち外目	国 債 券	2,649			2,649	3,198			3,198
	うち外目	国 株 式	_				_			_
合		計	56,564	100.00	53,914	2,649	59,010	100.00	55,812	3,198

●公共債の引受額

(単位:百万円) **国債等公共債及び証券投資信託の窓口販売実績** (単位:百万円)

種	類	2017年9月期	2018年9月期
玉	債	_	_
地方債	・政保債	_	_
合	計		_

種類類	2017年9月期	2018年9月期
国	13	0
地方債 · 政保債	_	_
合 計	13	0
証券投資信託	858	1,012

(注)額面ベースで記載しております。

有価証券の残存期間別残高

(単位:百万円)

_	期別・種類				類						2	017年	9月期末	₹				
						玉	債	地方債		社	債	株	式	その他の記	E券			
期	間							IŲ.	地力原		111	I.E.	1/1\	10			うち外国債券	うち外国株式
1		年		以		下		_	20	1	2,	165			5	62	200	
1	年	超	3	年	以	下		_	6	2	5,3	353			1,1	71	599	
3	年	超	5	年	以	下	ć	2,713	1,24	3	3,9	960			2,0	82	741	
5	年	超	7	年	以	下		416	4,56	3	9,0	023			1,1	28	786	
7	年	超	10	年	以	下		928	1,11;	3	2,	126			6,7	22	852	
10			年			超		901	198	3	1,0	379			1	99	_	
期	間の)定(めの	な	いも	の		_	l	-		_	(9,371	4,3	67	_	
É	<u> </u>				Ē	+	4	4,960	7,38	9	24,0	009	(9,371	16,2	87	3,179	
										-								

(単位:百万円)

	期別・種類						J · 種類 2018年9月期末									
						玉	債	地方債	社	債	株	式	その他の証券			
期	間						ഥ	惧	地力頂	仕	惧	不	II		うち外国債券	うち外国株式
1		年		以		下		_	_		2,631			97	_	
1	年	超	3	年	以	下		206	37		4,174			1,587	701	
3	年	超	5	年	以	下		2,483	3,512		7,794			2,371	406	
5	年	超	7	年	以	下		1,337	2,680		7,435			1,319	1,058	
7	年	超	10	年	以	下		_	901		1,706			5,496	832	
10)		年			超		891	199		2,598			13	_	
期	間の)定	めの	な	いも	の		_	_				9,226	4,722	_	_
	<u></u>				1	計		4,919	7,329	2	26,340		9,226	15,609	2,999	_

(注) 自己株式は「株式」から除いております。

● 商品有価証券売買高(ディーリング実績) (単位:百万円)

種	類	2017年9月期	2018年9月期
商品	国 債	_	_
商品	地方債	_	_
商品政	府保証債	_	_
合	計	_	_

●商品有価証券平均残高

種	類	2017年9月期	2018年9月期
商品	国 債	_	_
商品地	方債	_	_
商品政府	保証債	_	_
その他の商品	品有価証券	_	_
合	計	_	_

時価情報

満期保有目的の債券

(単位:百万円)

				2	2017年9月期末	ŧ	2	2018年9月期末	₹
	看	種類		中間貸借対照表 計上額	時 価	差額	中間貸借対照表 計上額	時 価	差額
	玉		債	_	_	_	_		_
D+ /TT 4.5-1-19975 /H-5-1977 == 1	地	方	債	_	_	_	_		_
時価が中間貸借対照表計上 額を超えるもの	社		債	_	_	_	_		_
BRICKETO OV	そ	の	他	400	404	4	200	201	1
	小		計	400	404	4	200	201	1
	玉		債	_	_	_	_	-	
14年が古明代世社四丰弘 L	地	方	債	_	_	_	_		
時価が中間貸借対照表計上 額を超えないもの	社		債	_	_	_	_		_
B(で起/に/ひ/100)	そ	の	他	_	_	_	_		_
	小八		計	_	_	_	_		
	合		計	400	404	4	200	201	1

●その他有価証券

(単位:百万円)

			2	017年9月期末	 ₹	2	2018年9月期末	₹
	種	類	中間貸借対照表 計上額	取得原価	差額	中間貸借対照表計上額	取得原価	差額
	株	式	7,750	6,242	1,508	7,048	4,701	2,347
	債	券	31,674	30,669	1,005	30,687	29,845	841
	国	債	4,960	4,695	264	4,919	4,695	223
中間貸借対照表計上額が 取得原価を超えるもの	地フ	5 債	6,892	6,661	231	6,633	6,436	197
双付添画で起えるもの	社	債	19,821	19,312	508	19,133	18,713	420
	その	他	8,169	7,388	780	9,726	8,732	994
	小	計	47,594	44,299	3,294	47,462	43,279	4,183
	株	式	1,454	1,564	△109	2,013	2,236	△222
	債	券	4,684	4,700	△16	7,902	7,928	△25
	玉	債	_	_	_	_	_	_
中間貸借対照表計上額が 取得原価を超えないもの	地フ	5 債	496	500	△3	695	700	△4
以付添価/と超える(100)	社	債	4,187	4,200	△12	7,207	7,227	△20
	その	他	7,711	8,022	△310	5,671	5,832	△160
	小	計	13,850	14,287	△436	15,588	15,996	△408
	合	計	61,444	58,587	2,857	63,050	59,275	3,775

●減損処理を行った有価証券

(2017年9月期)

売買目的有価証券以外の有価証券(時価を把握することが極めて困難なものを除く)のうち、当該有価証券の時価が取得原価に比べて著しく下落しており、時価が取得原価まで回復する見込みがあると認められないものについては、当該時価をもって中間貸借対照表計上額とするとともに、評価差額を当中間会計期間の損失として処理(以下、「減損処理」という。)しております。

当中間会計期間における減損処理額は、該当ありません。

また、時価が「著しく下落した」と判断するための基準は、中間会計期間末日の時価の下落率が簿価の30%以上であるものを対象としております。時価の下落率が簿価の50%以上である場合は、時価が「著しく下落した」ときに該当することとして減損処理を行っております。また、時価の下落率が30%以上50%未満である場合は回復可能性の判定を行い、減損処理を行っております。

(2018年9月期)

売買目的有価証券以外の有価証券(時価を把握することが極めて困難なものを除く)のうち、当該有価証券の時価が取得原価に比べて著しく下落しており、時価が取得原価まで回復する見込みがあると認められないものについては、当該時価をもって中間貸借対照表計上額とするとともに、評価差額を当中間会計期間の損失として処理(以下、「減損処理」という。)しております。

当中間会計期間における減損処理額は、該当ありません。

また、時価が「著しく下落した」と判断するための基準は、中間会計期間末日の時価の下落率が簿価の30%以上であるものを対象としております。時価の下落率が簿価の50%以上である場合は、時価が「著しく下落した」ときに該当することとして減損処理を行っております。また、時価の下落率が30%以上50%未満である場合は回復可能性の判定を行い、減損処理を行っております。

●金銭の信託関係

2017年9月期末及び2018年9月期末において、該当事項はありません。

●その他有価証券評価差額金

中間貸借対照表に計上されているその他有価証券評価差額金の内訳は、次のとおりです。

(単位:百万円)

(単位:百万円)

		2017年9月期末	2018年9月期末	
評値	西差額	2,857	3,775	
	その他有価証券	2,857	3,775	
	その他の金銭の信託	_	_	
(△	〉繰延税金負債	892	1,168	
その	の他有価証券評価差額金	1,964	2,606	

デリバティブ取引

当行は、2017年9月期末及び2018年9月期末においてデリバティブ取引を利用していないため、該当事項はありません。

その他の業務

【内国業務】

●内国為替取扱高

		区			2017年	9月期	2018年9月期		
				23	口数(千口)	金額	口数(千口)	金額	
送	金	為	替 -	各地へ向けた分	248	144,243	249	146,897	
1	並	<i>ন</i> ার্ড	首	各地より受けた分	335	162,704	327	167,225	
代	金	取	17	各地へ向けた分	1	2,078	2	2,391	
10	317	ДX	1/	各地より受けた分	0	1,095	0	1,245	

に基づく開示事項バーゼルⅡ(第3の柱)

経営諸効率指標 (単位:%)

		2017年9月期		2018年9月期			
	国内業務部門	国際業務部門	合計	国内業務部門	国際業務部門	合計	
資金運用利回り	1.75	1.54	1.75	1.78	1.45	1.77	
資 金 調 達 原 価	1.46	_	1.46	1.42	_	1.42	
総資金利鞘	0.29	_	0.29	0.36	_	0.35	

●利益率 (単位:%)

種類類	2017年9月期	2018年9月期
総資産経常利益	率 0.38	0.43
資本経常利益	率 8.44	9.37
総資産中間純利益	率 0.27	0.31
資本中間純利益	率 6.10	6.65

●貸出金の預金に対する比率

(単位:%)

	項				2017年9月期	2018年9月期		
預	貸	₹	末	残	78.44	77.63		
次	貝	举	平	残	78.07	78.39		

(注) 預金には譲渡性預金を含んでおります。

●有価証券の預金に対する比率

(単位:%)

						2017年	59月期	2018年9月期		
						中間期末残高	期中平均	中間期末残高	期中平均	
玉	内	業	務	務部門		25.29	23.06	25.67	23.82	
玉	際	業	務	部 門		_	_	_	_	
合				計	26.65	24.19	26.94	25.19		

●一店舗当たり預金

(単位:百万円)

項目			_		2017年9月期末	2018年9月期末				
営 業 店 舗 数				数	27店	25店				
_	店	舗	当	た	り	預	金	額	8,615	9,413

(注) 1. 預金額には譲渡性預金を含んでおります。

2. 営業店舗数にはブランチ・イン・ブランチを含んでおりません。

●一店舗当たり貸出金

(単位:百万円)

	項目			目		2017年9月期末	2018年9月期末		
営	営業店舗数				数	27店	25店		
_	A NI		金	6,758	7,308				

(注) 営業店舗数にはブランチ・イン・ブランチを含んでおりません。

●従業員1人当たり預金

(単位:百万円)

Ij	Ą	E	1	2017年9月期末	2018年9月期末		
従	業	員 数		352人	315人		
従 業 !	員 1 人 🗎	当たり預	金 額	660	747		

(注) 1. 預金額には譲渡性預金を含んでおります。

2. 従業員数は期中平均人員を記載しております。

●従業員1人当たり貸出金

(単位:百万円)

項	目	2017年9月期末	2018年9月期末										
従業	員 数	352人	315人										
従業員1,	人当たり貸出金	518	580										

(注)従業員数は期中平均人員を記載しております。

事業の概況

取り組み状況地域密着型金融の

治 中間財務諸表金・株式・従業員

自己資本の構成に関する事項

(2017年9月期、2018年9月期)

● 単体自己資本比率(国内基準)

		2017	‡9月期	2018年9月期		
項			経過措置による		経過措置によ	
			不算入額		不算入額	
]ア資本に係る基礎項目(1)	_					
通株式又は強制転換条項付優先株式に係る株主資本の額		11,492		12,007		
うち、資本金及び資本剰余金の額		3,939		3,939		
うち、利益剰余金の額		7.686		8,203		
うち、自己株式の額(△)		67		70		
うち、社外流出予定額(△)		65		65		
うち、上記以外に該当するものの額						
1 - 1 - 1 - 1 - 1 - 1 - 1 - 1 - 1 - 1 -						
・通株式又は強制転換条項付優先株式に係る新株予約権の額						
1ア資本に係る基礎項目の額に算入される引当金の合計額		1,079		1,632		
うち、一般貸倒引当金コア資本算入額		1,079		1,632		
うち、適格引当金コア資本算入額		_		_		
 随格旧非累積的永久優先株の額のうち、コア資本に係る基礎項	目の額に含まれる額	_		_		
 格旧資本調達手段の額のうち、コア資本に係る基礎項目の額	に含まれる額	_		_		
的機関による資本の増強に関する措置を通じて発行された資						
1ア資本に係る基礎項目の額に含まれる額		_		_		
土地再評価額と再評価直前の帳簿価額の差額の四十五パーセン	/トに相当する額のうち、	200		007		
1ア資本に係る基礎項目の額に含まれる額		296	/	237		
ア資本に係る基礎項目の額	(1)	12,868		13,876		
]ア資本に係る調整項目(2)						
・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・)を除く。) の額の合計額	41	27	222	5	
うち、のれんに係るものの額	7 C PAR (0) 9 DE 9 DE 11 DE					
	ガスナのいりの節	4.1		000		
うち、のれん及びモーゲージ・サービシング・ライツに住	れるもの以外の額	41	27	222	5	
延税金資産(一時差異に係るものを除く。)の額						
格引当金不足額						
券化取引に伴い増加した自己資本に相当する額		_	-	_		
債の時価評価により生じた時価評価差額であって自己資本に	算入される額	_	_	_		
払年金費用の額		_	_	_		
 	D額	_	_	_		
図的に保有している他の金融機関等の対象資本調達手段の額			_			
		450		240		
数出資金融機関等の対象普通株式等の額		452	301	340	3	
定項目に係る十パーセント基準超過額						
うち、その他金融機関等の対象普通株式等に該当するものに						
うち、モーゲージ・サービシング・ライツに係る無形固定資産に	こ 関連するものの額	_	_	_		
うち、繰延税金資産(一時差異に係るものに限る。)に関	関連するものの額	_	-	_		
		_	_	_		
うち、その他金融機関等の対象普通株式等に該当するものに	関連するものの額	_	_	_		
うち、モーゲージ・サービシング・ライツに係る無形固定資産に						
うち、繰延税金資産(一時差異に係るものに限る。)に関						
		400				
]ア資本に係る調整項目の額 - コンター	(□)	493		563		
1己資本						
己資本の額((イ) - (ロ))	(八)	12,374		13,313		
スク・アセット等(3)						
用リスク・アセットの額の合計額		146,746		152,026		
うち、経過措置によりリスク・アセットの額に算入される	る額の合計額	△2,061		△612		
うち、無形固定資産(のれん及びモーゲージ・サー						
ツに係るものを除く。)		27		55		
うち、繰延税金資産		_		_		
うち、前払年金費用		_				
うち、他の金融機関等向けエクスポージャー		△2,554		△902		
		·				
うち、上記以外に該当するものの額	± #=	465		234		
ーケット・リスク相当額の合計額をハパーセントで除して得						
ペレーショナル・リスク相当額の合計額を八パーセントで除	して得た額	8,266		8,247		
用リスク・アセット調整額				_		
ペレーショナル・リスク相当額調整額				_		
スク・アセット等の額の合計額	(二)	155,012		160,273		
	(-)	100,012		100,270		
己資本比率		7.000.		0.000		
1己資本比率((八) / (二))		7.98%		8.30%		

定量的な開示事項

(2017年9月期、2018年9月期)

自己資本の充実度に関する事項

イ. 信用リスクに対する所要自己資本の額

(単位:百万円)

	2017£	F9月期	2018年9月期		
	リスク・アセット	所要自己資本額	リスク・アセット	所要自己資本額	
【資 産 (オ ン ・ バ ラ ン ス) 項 目】					
現 金	_	_	_	_	
我が国の中央政府及び中央銀行向け	_	_	_	_	
外国の中央政府及び中央銀行向け	_	_	_	_	
国際決済銀行等向け	_	_	_	_	
我が国の地方公共団体向け	_	_	_	_	
外国の中央政府等以外の公共部門向け	_	_	_	_	
国際開発銀行向け	_	_	_	_	
地 方 公 共 団 体 金 融 機 構 向 け	_	_	_	_	
我が国の政府関係機関向け	210	8	310	12	
地 方 三 公 社 向 け	_	_	_	_	
金融機関及び第一種金融商品取引業者向け	894	35	979	39	
法 人 等 向 け	50,613	2,024	55,053	2,202	
中小企業等向け及び個人向け	52,794	2,111	54,127	2,165	
抵 当 権 付 住 宅 ロ ー ン	5,546	221	5,004	200	
不 動 産 取 得 等 事 業 向 け	14,894	595	16,332	653	
三 月 以 上 延 滞 等	372	14	603	24	
取 立 未 済 手 形	7	0	9	0	
信用保証協会等による保証付	684	27	659	26	
株式会社地域経済活性化支援機構による保証付	_	_	_	_	
出資等	10,313	412	9,856	394	
上 記 以 外	8,840	353	5,750	230	
証券化 (オリジネーターの場合)	_	_	_	_	
_ 証 券 化 (オ リ ジ ネ ー タ ー 以 外 の 場 合)	_	_	_	_	
複数の資産を裏付とする資産(所謂ファンド)のうち、個々の資産の把握が困難な資産	2,912	116	3,353	134	
経過措置によりリスク・アセットの額に算入されるものの額	493	19	290	11	
他の金融機関等の対象資本調達手段に係るエクスポージャーに係る経過措置によりリスクアセットの額に算入されなかったものの額	△2,554	△102	△902	△36	
資産 (オン・バランス) 計	146,022	5,840	151,427	6,057	
【オ フ ・ バ ラ ン ス 取 引 等 項 目】					
法 人 等 向 け	521	20	454	18	
_ 中 小 企 業 等 向 け 及 び 個 人 向 け	201	8	142	5	
不 動 産 取 得 等 事 業 向 け	1	0	1	0	
三 月 以 上 延 滞 等	_		_	_	
上 記 以 外	_		_	_	
オフ・バランス取引等計	724	28	598	23	
【CVAリスク相当額及び中央清算機関関係】					
C V A リ ス ク 相 当 額	_	_	_	_	
中 央 清 算 機 関 関 係	_	_	_	_	
合 計	146,746	5,869	152,026	6,081	

- (注) 所要自己資本額=リスク・アセット×4%
 - ロ. 内部格付手法が適用される株式等エクスポージャーに係る信用リスクに対する所要自己資本の額 該当ありません。
 - ハ. 信用リスク・アセットのみなし計算が適用されるエクスポージャーに係る信用リスクに対する所要自己資本の額該当ありません。
 - 二. マーケット・リスクに対する所要自己資本の額及びこのうち使用する方式ごとの額 該当ありません。
 - ホ、オペレーショナル・リスクに対する所要自己資本の額

	店		В		所要自己資本額			
項 目					2017年9月期 2018年9月期			
基	基 礎 的 手			法	330	329		

へ. 総所要自己資本額

(単位:百万円)

項目	2017年9月期	2018年9月期		
信用リスク(標準的手法)	5,869	6,081		
オペレーショナル・リスク(基礎的手法)	330	329		
総所要自己資本額	6,200	6,410		

●信用リスク(信用リスク・アセットのみなし計算が適用されるエクスポージャー及び証券化エクスポージャーを除く。)に関する事項

※期中平均残高は、中間期末残高から大幅に乖離していないため、記載しておりません。

- イ. 信用リスクに関するエクスポージャーの中間期末残高及びエクスポージャーの主な種類別の内訳
- ロ. 信用リスクに関するエクスポージャーの中間期末残高のうち、次に掲げる区分ごとの額及びそれらのエクスポージャーの主な種類別の内訳
 - (1)地域別、(2)業種別又は取引相手の別、(3)残存期間別
- ハ. 三月以上延滞エクスポージャーの中間期末残高又はデフォルトしたエクスポージャーの中間期末残高及びこれら の次に掲げる区分ごとの額
 - (1)地域別、(2)業種別又は取引相手の別 信用リスクに関するエクスポージャー及び三月以上延滞エクスポージャーの中間期末残高

		2017	∓9月期		2018年9月期					
	信用リスク	こ関するエクス	ポージャーのロ	中間期末残高	信用リスクに	に関するエクス	ポージャーのロ	中間期末残高		
		貸出金等、コミット メント及びその他の デリバティブ以外の オフ・バランス取引	債 券	三月以上延滞エクスポージャーの中間期末残高		貸出金等、コミット メント及びその他の デリバティブ以外の オフ・バランス取引	債 券	三月以上延滞エクスポージャーの中間期末残高		
	計 267,718	182,744	39,538	570	271,661	182,580	41,589	836		
	t —	_	_	_	_	_	_	_		
地域別計	267,718	182,744	39,538	570	271,661	182,580	41,589	836		
製造	業 8,659	6,879	1,734	44	8,947	6,497	2,413	36		
農業、林	業 1,435	1,432		3	1,618	1,609	_	8		
漁	業 387	387	_	_	378	378	_	_		
鉱業、採石業、砂利採取	業 44	44	_	_	64	64	_	_		
建設	業 10,370	10,194	158	17	11,996	11,139	635	221		
電気・ガス・熱供給・水道	業 11,758	8,423	3,334	_	13,511	9,693	3,817	_		
情報通信	業 2,178	769	1,409	_	1,707	379	1,327	_		
運輸業、郵便		2,407	1,023	17	3,864	2,808	1,011	44		
卸売業、小売	業 11,446	10,817	513	116	11,975	11,184	709	81		
金融業、保険	第 18,154	3,087	15,067	_	18,568	3,261	15,306	_		
不動産業、物品賃貸	業 50,499	48,537	1,882	79	52,503	49,939	2,530	33		
各種サービス		27,742	299	153	29,396	28,835	298	263		
国・地方公共団		24,088	14,115	_	35,357	21,819	13,538	—		
個	人 38,072	37,934	_	138	35,114	34,968	_	146		
	也 —	_	_	_	_	_	_	—		
業種別計	222,853	182,744	39,538	570	225,005	182,580	41,589	836		
その他(区分なし		_	_	_	46,656	_	_	_		
残 高 合 計	267,718	182,744	39,538	570	271,661	182,580	41,589	836		
	下 27,663	24,858	2,567	238	28,384	25,395	2,631	357		
1年超3年以		15,376	6,015	31	18,517	13,351	5,119	46		
3年超5年以	下 25,966	17,470	8,454	41	32,819	18,456	14,196	166		
5年超7年以		13,655	15,000	28	28,913	16,323	12,512	77		
7年超10年以		19,996	5,020	65	21,179	17,678	3,440	61		
, , , , , , , , , , , , , , , , , , ,	图 93,430	90,785	2,479	165	94,612	90,797	3,688	126		
期限の定めのないも		601	_	_	578	577	_	0		
その他(区分なし		_		_	46,656	_	_	_		
残存期間別計	267,718	182,744	39,538	570	271,661	182,580	41,589	836		

⁽注) 1. オフ・バランス取引はデリバティブ取引を除く。

^{2. 「}三月以上延滞エクスポージャー」とは、元本又は利息の支払いが約定支払日の翌日から3か月以上延滞しているエクスポージャー、又は引当金勘案前でリスク・ウェイトが150%以上であるエクスポージャー。

^{3.} 政府保証債、公社公団債は金融業、保険業に区分。

二. 一般貸倒引当金、個別貸倒引当金の中間期末残高及び期中の増減額

一般貸倒引当金、個別貸倒引当金の中間期末残高及び期中増減額

(単位:百万円)

								期首残高	期中増加額	期中源	載少額	中間期末残高	
								州日次同	州中垣加蝕	目的使用	その他	中间别不没同	
	一般貸	岱	貸倒		当	当 金	2017年9月期	1,045	1,079	_	1,045	1,079	
		貝	刊	引	=	コ 並	2018年9月期	1,636	1,632	_	1,636	1,632	
/EI	個 別	貸倒	; / <u>/</u>	1 21	引当	当 金	2017年9月期	2,218	2,172	_	2,218	2,172	
			刊	וכ			2018年9月期	1,459	1,489	_	1,459	1,489	
	合				計		= ∔	2017年9月期	3,264	3,252	_	3,264	3,252
					Ī	51	2018年9月期	3,096	3,122	_	3,096	3,122	

(一般貸倒引当金の地域別、業種別内訳)

一般貸倒引当金については、地域別・業種別ごとに算定を行っていないため、開示しておりません。

(個別貸倒引当金の地域別、業種別内訳) (単位:百万円)

木.	業種別又は取引相手の別の貸出金償却の額	(単位:百万円)
----	---------------------	----------

(個別負別ガコ並の地域	ייווא ארוביווירידו איווא איווא א	/ (羊位・ロ/기・
	2017年9月期	2018年9月期
	中間期末残高	中間期末残高
国 内 計	2,172	1,489
国 外 計	_	_
也 域 別 計	2,172	1,489
製 造 業	231	97
農業、林業	9	7
漁業	_	_
鉱業、採石業、砂利採取業	_	_
建 設 業	46	209
電気・ガス・熱供給・水道業	_	_
情報通信業	_	_
運輸業、郵便業	3	2
卸売業、小売業	190	155
金融業、保険業	_	_
不動産業、物品賃貸業	166	117
各種サービス業	1,509	874
国·地方公共団体	_	_
個 人	16	24
そ の 他	_	_
業 種 別 計	2,172	1,489

	2017年9月期	2018年9月期
	貸出金償却	貸出金償却
製 造 業	_	_
農業、林業	_	_
漁業	_	_
鉱業、採石業、砂利採取業	_	_
建 設 業	_	_
電気・ガス・熱供給・水道業	_	_
情報 通信業	_	_
運輸業、郵便業	_	_
卸売業、小売業	_	_
金融業、保険業	_	_
不動産業、物品賃貸業	_	_
各種サービス業	_	_
国·地方公共団体	_	
個 人	_	_
そ の 他		
業種別計	_	

へ. 標準的手法が適用されるエクスポージャーについて、リスク・ウェイトの区分ごとの信用リスク削減手法の効果 を勘案した後の残高

	信用リスク削減手法勘案後のエクスポージャーの額				
	格付	適用	格付不適用		
	2017年9月期	2018年9月期	2017年9月期	2018年9月期	
0%	1,971	1,530	61,578	60,827	
10%	288	289	8,536	9,306	
20%	2,593	2,893	2,113	2,649	
35%	_	_	15,846	14,297	
50%	8,413	9,622	51	37	
75%	_	_	70,661	72,359	
100%	2,715	4,222	74,725	76,721	
120%	_	_	_	141	
150%	_	_	205	338	
250%	_	_	1,961	939	
350%	_	_	_	_	
1,250%	_	_	_	_	
その他(区分なし)	_	_	9,560	8,573	
合 計	15,982	18,558	245,241	246,192	

⁽注) 1. 「格付適用」とは、リスク・ウェイト算定にあたり、格付を適用しているエクスポージャーであり、「格付不適用」とは、格付を適用していないエクスポージャー。なお、格付は適格格付機関が付与しているものに限る。

^{2. 「}格付適用」エクスポージャーには、原債務者の格付を適用しているエクスポージャーに加え、保証人の格付を適用しているエクスポージャーや、ソブリン格付に準拠したリスク・ウェイトを適用しているエクスポージャーが含まれる。

●信用リスク削減手法に関する事項

イ. 標準的手法又は基礎的内部格付手法が適用されるポートフォリオについて次に掲げる信用リスク削減手法が適用 されたエクスポージャーの額

標準的手法(単位:百万円)

	2017年9月期	2018年9月期
適格金融資産担保が適用されたエクスポージャー	1,153	1,353

ロ. 標準的手法又は内部格付手法が適用されるポートフォリオについて、保証又はクレジット・デリバティブが適用 されたエクスポージャーの額

標準的手法(単位:百万円)

	2017年9月期	2018年9月期
保証又はクレジット・デリバティブが適用されたエクスポージャー	0	_

派生商品取引及び長期決済期間取引の取引相手のリスクに関する事項

イ. 与信相当額の算出に用いる方式

派生商品取引の与信相当額は、カレント・エクスポージャー方式での算出を想定しておりますが、中間期末時点での残高はありません。

- ロ. グロス再構築コストの額(零を下回らないものに限る。)の合計額 該当ありません。
- ハ. 担保による信用リスク削減手法の効果を勘案する前の与信相当額(派生商品取引にあっては、取引の区分ごとの 与信相当額を含む。)

該当ありません。

二. 口. に掲げる合計額及びグロスのアドオンの合計額からハ. に掲げる額を差し引いた額(カレント・エクスポージャー方式を用いる場合に限る。)
該当ありません。

ホ. 担保の種類別の額

該当ありません。

- へ. 担保による信用リスク削減手法の効果を勘案した後の与信相当額 該当ありません。
- ト. 与信相当額算出の対象となるクレジット・デリバティブの想定元本額をクレジット・デリバティブの種類別、かつ、プロテクションの購入又は提供の別に区分した額 該当ありません。
- チ. 信用リスク削減手法の効果を勘案するために用いているクレジット・デリバティブの想定元本額 該当ありません。

●証券化エクスポージャーに関する事項

イ. 銀行がオリジネーターである場合における信用リスク・アセットの算出対象となる証券化エクスポージャーに関する事項

該当ありません。

- ロ.銀行が投資家である場合における信用リスク・アセットの算出対象となる証券化エクスポージャーに関する事項 該当ありません。
- ハ. 銀行がオリジネーターである場合におけるマーケット・リスク相当額の算出対象となる証券化エクスポージャー に関する事項 該当ありません。
- 二. 銀行が投資家である場合におけるマーケット・リスク相当額の算出対象となる証券化エクスポージャーに関する 事項

該当ありません。

●マーケット・リスクに関する事項

該当ありません。

●出資等又は株式等エクスポージャーに関する事項

- イ. 中間貸借対照表計上額、時価及び次に掲げる事項に係る中間貸借対照表計上額
 - (1) 上場している出資等又は株式等エクスポージャー(以下「上場株式等エクスポージャー」という。)
 - (2) 上場株式等エクスポージャーに該当しない出資等又は株式等エクスポージャー

(単位:百万円)

(単位:百万円)

(単位:百万円)

(単位:百万円)

	2017年9月期 中間貸借対照表計上額	2018年9月期 中間貸借対照表計上額
上場株式等エクスポージャー	12,856	13,016
上場株式等エクスポージャーに該当しない出資等又は株式等エクスポージャー	165	164
合 計	13,021	13,181

ロ. 出資等又は株式等エクスポージャーの売却及び償却に伴う損益の額

	2017年9月期	2018年9月期
売却損益額	75	122
	_	_

ハ. 中間貸借対照表で認識され、かつ、中間損益計算書で認識されない評価損益の額

	2017年9月期	2018年9月期
中間貸借対照表で認識され、中間損益計算書で認識されない評価損益の額	1,956	2,907

二. 中間貸借対照表及び中間損益計算書で認識されない評価損益の額

	2017年9月期	2018年9月期
中間貸借対照表及び中間損益計算書で認識されない評価損益の額	_	_

- ●信用リスク・アセットのみなし計算が適用されるエクスポージャーの額 該当ありません。
- ●金利リスクに関して銀行が内部管理上使用した金利ショックに対する 損益又は経済的価値の増減額

金利ショックに対する経済価値の変動額

(単位:百万円)

	2017年9月期	2018年9月期
金利リスク量	2,458	3,856
うち預金・貸出金	211	91
うち有価証券	2,247	3,765

計測方法

- ・預金、貸出金、有価証券の金利リスク量はVaR(分散共分散法)を用いて計測しております。 前提条件
- ・預金、貸出金は信頼区間99%、保有期間1年、観測期間5年で計測しております。 (最低金利水準をゼロまたは0.000001%として計測しております。)
- ・有価証券は信頼区間99%、保有期間3ヶ月、観測期間1年で計測しております。 (一部商品において、最低金利水準を0.10%として計測しております。)
- ・全体の金利リスク量は預金、貸出金及び有価証券リスク量を単純合算して算出しております。

銀行法施行規則第19条の2に基づく開示項目

1. 氢	退行の概況及び組織に関する事項	
1	. 持株数の多い順に10以上の株主に関する事項	7
	①氏名	
	②各株主の持株数	
	③発行済株式の総数に占める各株主の持株数の割合	
2. 🕯	銀行の主要な業務に関する事項	
1	. 直近の中間事業年度における事業の概況	2
	. 直近の3中間事業年度及び2事業年度における主要な業務の状況を示す指標	3
	①経常収益	
	②経常利益又は経常損失	
	③中間純利益又は中間純損失	
	④資本金及び発行済株式の総数	
	⑤純資産額	
	⑥総資産額	
	⑦預金残高	
	⑧貸出金残高	
	⑨有価証券残高	
	⑩単体自己資本比率	
	⑪従業員数	
八	. 直近の2中間事業年度における業務の状況を示す指標	
((1) 主要な業務の状況を示す指標	
	①業務粗利益及び業務粗利益率	14
	②国内業務部門並びに国際業務部門の区分ごとの資金運用収支、役務取引等収支、特定取引収支及びその他	
	業務収支	14
	③国内業務部門並びに国際業務部門の区分ごとの資金運用勘定並びに資金調達勘定の平均残高、利息、利回	
	り及び資金利ざや	22
	④国内業務部門並びに国際業務部門の区分ごとの受取利息及び支払利息の増減	14
	⑤総資産経常利益率及び資本経常利益率	22
	⑥総資産中間純利益率及び資本中間純利益率・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	22
((2) 預金に関する指標	
	①国内業務部門及び国際業務部門の区分ごとの流動性預金、定期性預金、譲渡性預金、その他の預金の平均	
	残高·······	16
	②固定金利定期預金、変動金利定期預金及びその他の区分ごとの定期預金の残存期間別の残高	16
((3) 貸出金等に関する指標	
	①国内業務部門並びに国際業務部門の区分ごとの手形貸付、証書貸付、当座貸越及び割引手形の平均残高…	17
	②固定金利及び変動金利の区分ごとの貸出金の残存期間別の残高	17
	③担保の種類別(有価証券、債権、商品、不動産、保証及び信用の区分)の貸出金残高及び支払承諾見返額…	17
	④使途別(設備資金及び運転資金の区分)の貸出金残高	17
	⑤業種別の貸出金残高及び貸出金の総額に占める割合······	18
	⑥中小企業等に対する貸出金残高及び貸出金の総額に占める割合	18

⁽注) 項目のうち頁数の記載がないものは、該当事項がありませんので掲載しておりません。

	⑦特定海外債権残高の5%以上を占める国別の残高	該当なし
	⑧国内業務部門並びに国際業務部門の区分ごとの預貸率の期末値及び期中平均値	22
(4	4) 有価証券に関する指標	
	①商品有価証券の種類別(商品国債、商品地方債、商品政府保証債及びその他の商品有価証券の区分)の) <u>平</u>
	均残高(銀行が特定取引勘定を設けている場合を除く)	19
	②有価証券の種類別(国債、地方債、短期社債、社債、株式、外国債券及び外国株式その他の証券の区分	
	の残存期間別の残高・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	
	③国内業務部門及び国際業務部門の区分ごとの有価証券の種類別(国債、地方債、短期社債、社債、株式	
	外国債券及び外国株式その他の証券の区分)の平均残高	
	④国内業務部門並びに国際業務部門の区分ごとの預証率の期末値及び期中平均値	
(!	5) 信託業務に関する指標	該当なし
	行の業務の運営	F 0
	小企業の経営の改善及び地域の活性化のための取組の状況・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	5, 6
	終行の直近の2中間事業年度における財産の状況 - 中間貸借対照表、中間損益計算書、及び中間株主資本等変動計算書	. 0 0
	中间負債対照表、中间損益計算者、及び中间株主員本等変動計算者・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	
⊔.		10
	①破綻先債権に該当する貸出金	
	②延滞債権に該当する貸出金	
	③3カ月以上延滞債権に該当する貸出金 ④貸出条件緩和債権に該当する貸出金	
八.	受員出来什該和負権に該当9の負出金 自己資本の充実の状況について金融庁長官が別に定める事項····································	23~28
	次に掲げるものに関する取得価額又は契約価額、時価及び評価損益	
		20
	②金銭の信託	21
	③銀行法施行規則第13条の3第1項第5号イからホまでに掲げる取引	21
	・金融先物取引	
	・金融等デリバティブ取引	
	· 先物外国為替取引	
	・有価証券店頭デリバティブ取引、有価証券指数等先物取引、有価証券オプション取引又は外国市場証券	先
	物取引	
	・有価証券先物取引又は外国有価証券市場における有価証券先物取引と類似の取引	
	貸倒引当金の期末残高及び期中の増減額・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	
	貸出金償却の額····································	
►.	銀行が中間貸借対照表、中間損益計算書及び中間株主資本等変動計算書について金融商品取引法第193	
	の2第1項の規定に基づき公認会計士又は監査法人の監査証明を受けている場合にはその旨	13

(注) 項目のうち頁数の記載がないものは、該当事項がありませんので掲載しておりません。

佐賀共栄銀行